

平成27年11月5日～21日付

ホツマツタエ講座

ヤマトタケの妊み月に見る アスス暦は2倍化暦である元文書発見記

ホツマツタエ研究家 吉 田 六 雄

まえがき

【なぜ】 ヤマトタケ（弟の名ハナヒコ コウス皇子）は、去年ウ（四）月に妊みて生まず、フソヒ（二十一）月経て師走望に双子として生まれたのか。生理学上、子供は10月10日で生まれるのに対し、約2倍の21ヶ月後に生まれた記述です。この疑問を紐解く根拠は、（1）アスス暦を近代の暦法と対比して見る。（2）お腹での子供の成長する体重を調べて見る。この（1）（2）を比較することで、ヤマトタケが生まれた妊み月の21ヶ月が正しいのか否かを判断されると思います。

【調査結果】（1）アスス暦を近代の太陰太陽暦で計算した場合、1年平均約365日で日エトが再現されました。それでも、ホツマツタエの人物の年齢は、トミ（臣）、スメラギ（天皇）とも百歳以上が70～80%を占めることになります。また（2）妊み月10月の子供の成長は1日当たり140gと云われます。単純計算した場合、10月に生まず、21ヶ月時には双子の合計体重は約95kgを超えます。（通常分娩は3200g～4000g程度/1子）

【結論】 アスス暦の太陰太陽暦を基準に、スメラギ（天皇）の百歳を超える年齢、21月で生まれたヤマトタケの記述を再検証すると、アスス暦は2倍化暦で証明され、普遍の太陽暦の妊み月10月との対照ができない。年齢、妊み月が太陽暦と照合できる条件は、スス暦に記述の通り「約27鈴で1日の長さが16穂→8穂に改訂」された内容を織り込むことが必要あり、その是正された暦（2倍化暦→1倍化暦）を使用しないことには説明できないようです。

【新たな国民の認識】 現在、アマテル神は神話の人とされているが、是正暦により西暦の年代で存在を認めることができます。神武天皇の即位は、紀元前660年→紀元前133年になり国民の認識に近くなります。

【新たな古代史年表】 古代から続くアマカミ（天神）、アマキミ（天君）、スメラギ（天皇）の正しい年齢が計算され、また修正年表が作成でき、考古学との年表と共に国際的にも通用する新古代年表が作成可能になります。詳細内容については、2頁以降の内容をご一読して頂ければ幸甚と思います。

本文

I、太陰太陽暦のアスス暦

ホツマツタエ暦のスス暦、アスス暦の解説について、平成6年にホツマツタエを手にした時より今日までの約21年間に渡り研究して来ました。そのアスス暦において、最近、やっとアスス暦は太陰太陽暦であったことを立証できました。

だが、それ以前にアスス暦の御世で活躍したトミ（臣）のオオヤマスミ系、モノヌシ系およびスメラギ（天皇）については、在位年数、生涯年齢を調査した結果、現在人と比較しても長大的であったことが判明しておりました。

このことで、アスス暦は暦法上において正しいが、アスス暦の尺度で人物の期間、年齢を推し測りますと、現在人の太陽暦の尺度と比べ異常に長大的であることが判明しました。この矛盾はどこにあるのか。そこでアスス暦より古いスス暦に遡り調査してみました。

II、太陽暦で解説されたスス暦

（1）スス暦の太陽暦の確定

スス暦について、ホツマツタエに記述のスス暦ルールに準じて解説して見ました。すると、スス暦のオリジナル（原暦）は穂が最小単位であり、その穂をアマテル神の生涯年齢に当てはめると、百七十三万二千五百年（歳）の長寿であったことをホツマツタエは記述しておりました。（現在人には意味不明な年齢ですが。）

更に、ホツマツタエを読み下しますと、最小単位の穂は年を表すと思っておりましたが、丹念に読み返しますと、正しくは1日の長さ（1日：16穂）に使用されており、後の約27鈴の所で、改訂（1日：16穂→8穂）されておりました。

このことから、アマテル神の生涯年齢である百七十三万二千五百年（歳）の意味を考えて見ますと、百七十三万二千五百年（歳）は、1日の長さと経過日数の組み合わせで成り立つことが判明しました。更に、経過日数を太陽暦の1年365.2422日で割り算しますと、古代太陽暦の年数が算出できることがわかって来ました。

（２）１日の長さと在位期間、年齢の関係

（１）項において、スス暦の年数が算出できることが判明しましたので、トミ（臣）のオオヤマスミ系、モノヌシ系の在位年数を計算して見ました。すると１人当たりの在位年数は、２１鈴～２６鈴間の在位年数に比較し２７鈴～５０鈴間の方が圧倒的に長大化しておりました。その倍率を考察して見ますと、１日の長さ１６穂と８穂の逆倍数になっていることが予想され、このことからスス暦の約２７鈴以降は、２倍化暦の現象を呈していることになります。

（３）スス暦、アスス暦に生きたワニヒコ（クシミカタマ）

ホツマツタエを読んで行きますと、スス暦とアスス暦の御世に渡り、アマキミ（天君）に使えた著名なトミ（臣）がいました。この人は、ホツマツタエの１～２８アヤ（綾）を編纂したワニヒコ（クシミカタマ）になります。

なぜ、ワニヒコを取り上げたかと云いますと、１９２穂（歳）と云う高齢が、アスス暦の１３５年（３１アヤ（綾）５０）の条に、「大三輪の姓賜わるワニヒコは１９２穂（歳）ぞ」と記述されているからです。この１９２穂をアスス暦、スス暦に割り振りしますと、アスス暦の御世に７７年、スス暦の御世に１１５年（アスス暦の尺度）になります。このことから明白のように、アスス暦もスス暦と同様に２倍化暦の継続が裏付けられたようです。

（４）アスス暦のスメラギ（天皇）の年齢

長暦（暦）_ウィキペディアの出典_ホツマツタエ_安聡本の中から、天皇の年齢を引用しますと、神武天皇（歳未記入）、綏靖天皇 84 歳、安寧天皇 70 歳、懿徳天皇（歳未記入）、孝昭天皇 113 歳、孝安天皇 137 歳、孝靈天皇 118 歳、孝元天皇 117 歳、開化天皇 111 歳、崇神天皇（歳未記入）、垂仁天皇 137 歳、景行天皇（歳未記入）になります。このように歳が記述されている天皇の中でも、ワニヒコ同様に百歳以上の天皇が６名も存在しておりました。

なお、ホツマツタエに歳が未記載の天皇を①出典_日本書紀（朝日新聞社本）より引用しますと、神武天皇 127 歳、懿徳天皇（歳未記入）、崇神天皇 120 歳、景行天皇 106 歳と記載されており、更に３名が追加され９名が百歳以上になります。このように１２名中９名が百歳以上の現象は、現代人と比較すると異常であると判断されました。

Ⅲ、2倍化暦→1倍化暦への組み換え

(1) スス暦、アスス暦

・スス暦(～27 鈴以前)

(原) スス暦の大きい暦数字を1日の長さ、1年の日数より年月日を算出。

・スス暦(27 鈴～)

(原) スス暦の大きい暦数字を1日の長さ、1年の日数より年月日を算出。

(改) 2→1倍化暦にするため、大きい暦数字を2分1にし、年月日を算出。

・アスス暦

(原) アスス暦の年月日を抽出。

(改) アスス暦→スス暦に変換するため、アスス暦の年月日、1日の長さより大きい暦数字を算出。次に、2→1倍化暦にするため、大きい暦数字を2分1にし、スス暦の年月日を算出。

(2) 日本書紀

・日本書紀

(原) 各天皇の御世の年月日を抽出。

(改) 日本書紀→アスス暦に変換するため、各天皇の年月日、1日の長さより大きい暦数字を算出。次に、2→1倍化暦にするため、大きい暦数字を2分1にし、スス暦の年月日を算出。

(3) スス暦、アスス暦、日本書紀暦の接続と1倍化暦の遡り年の原年

大きい暦数字が、スス暦(～27 鈴以前)、スス暦(27 鈴～)、アスス暦、日本書紀とも違うため、それぞれに計算された年月日が算出された段階で、年に調整年を設定しそれぞれの暦を接続します。また、接続年の原年は、スメラギ(天皇)の在位年数の異常年が解消されたと判定される、履中天皇の初年(西暦 399年)としました。

Ⅳ、ヤマトタケの生まれ妊み月に見る、2倍化暦の文書発見

1、妊み月に見られる2倍化暦の痕跡

(1) ヤマトタケは、通常の妊み月の約2倍の21ヶ月に生まれていた。

これまでのスス暦、アスス暦の研究は、状況証拠により2倍化暦を証明することに終やしていた感がありました。だが、状況証拠で2倍化暦が証明されずと、ホツマツタエの中に直接に2倍化暦の記述がないかを捜すことにしました。すると、直接的に2倍化暦を推測させる証拠(文章)がヤマトタケの条に2箇所、例1、2のように見つかりました。その内の【例1】は、ヤマトタケが双子として生まれたとの記述、また、【例2】は、鹿児島・曾於のタケ姫が双子を生んだとの記述です。なお、添付資料1(11頁)に例1、2のホツマツタエ直訳文を掲載しましたのでご覧下さい。

【例1】 38アヤ(綾)3～5 赤文字：ホツマツタエの直訳文を示す。

景行天皇の2年弥生(三月)のことです。吉備津彦の女(娘)が立たれて正皇后になられました。名前は、播磨のイナヒオイラツ姫です。姫は、内待(副皇后の位置)の時に生まれ、去年(初穂)ウ(4)月に妊みて十月(10ヶ月目)に生まず、フソヒ(21)月も経て、2穂の師走(12月)望に・・・双子を生む(お生みになりました)。双子の兄の名はモチヒトのオウス皇子、弟の名はハナヒコのコウス皇子と云いました。

【解説】

ヤマトタケこと、ハナヒコのコウスが、生まれた時の記述です。母であるイナヒオイラツ姫は初穂4月に妊まれて、10月10日の出産予定月は2穂1月だったのです。だが、予定月になっても生まず、21月も経った2穂の師走(12月)の望に、双子を生みになったとの記述です。

(2) タケ姫も、通常の妊み月の1.6倍の16ヶ月に双子を生んでいた。

【例2】 38アヤ(綾)20 赤文字：ホツマツタエの直訳文を示す。

またソオ(鹿児島・曾於)のタケが姫のタケ姫は、ソム(十六)月も妊みて双子のクニコリワケとクニチワケを生む(生みました。)

【解説】

ヤマトタケが生まれた奈良の日代宮と違い、遠く離れた鹿児島の曾於で双子が生まれ、それも10ヶ月後でなく、ソム(十六)月だったのです。これも、景行天皇の御世に、長い妊み月が集中しているようです。

2、ホツマツタエの妊み月

景行天皇の御世に双子また、長い妊み月が集中していたため、ホツマツタエの全文より子を「生む」の言葉より記述件数を検索して見ますと、約157件が抽出されました。その中で、妊み月まで記述されている件数を抽出して見ますと約8箇所（件）になります。

内訳は、アマテル神の九十六月、コヤネ百月、タチカラオの三十六月、サルタヒコの十六年の異常な妊み月が4件になります。また、二十一月以下の妊み月の記述が、（1）十月に生まず（4綾23）、（2）嫁ぎ（十月）生む（16綾15）、（3）十二月は、月満ち生まる（16綾30）、（4）十五月に生む（27綾47）、（5）二十一月も経て（38綾4）、（6）十六月妊み（38綾20）の6件になっておりました。この6件の傾向を見ますと、（1）（2）項→（5）項の方向に、妊み月が増加する傾向になっております。そこで、前述のようにスス暦の約27鈴において、1日の長さが改訂されておりましたが、この改訂時期を上の（1）～（6）項に挿入し、1日の長さの改訂と妊み月がどのように相関があるのか、影響度を調査してみました。

その結果、次の表に示すように（1）～（3）約27鈴以前は、十月の妊み月であり現在人と同じ妊み月が記述されておりました。それに対し、（4）～（6）約27鈴以後は、十五月、二十一月、十六月と長過ぎる妊み月が記述されておりました。このように異常な長さの妊み月のみが、特別にホツマツタエに記述されたと思いますが、生理学上では有り得ない無理な妊み月（補足説明：11頁）になっているようです。このため、なぜ、特別な妊み月が記述されたかを考察しますと、当時としては「当たり前の暦月」だったと思われます。だが、当時の暦は、現在の太陽暦を基準とした人体暦との間には、ズレがあったと思われます。その比較対象は、当2倍化暦であったことが推定されます。

表1 妊み月に見る ホツマツタエの記述と改訂暦の影響度

NO.	秀 NO	ホツマの妊み月の記述	生まれた人	コメント
(1)	4-23	十月に生まず	ワカヒト	現在人並み
(2)	16-15	嫁ぎ（十月）生む	（御種文の内容）	同上
(3)	16-30	十二月は、月満ち生まる	同上	同上
	21-64	アエよりヤエの 中五日	約27 鈴	改訂（暦）
(4)	27-47	十五月に生む	キツセ君を生む	長い妊み月
(5)	38-4	二十一月も 経て	ヤマトタケを双子生む	同上
(6)	38-20	十六月妊み	クニチワケを双子生む	同上

V、古代への遡り年に用いる1倍化暦（太陽暦）の評価結果

1、2倍化暦の即位年と季節の関係

1) 現状調査

ホツマツタエのスメラギ（天皇）は、初代タケヒト～12代タリヒコまでの12人になります。その12人のスメラギ（天皇）の即位年と季節の関係を、現状の2倍化暦より調査して見ました。その結果、12件中7件（58%）に季節の未記述がありました。また、その7件の即位年は、すべてが偶数年に偏っていました。季節が記述された5件は、奇数年3件と偶数年2件になり奇数年が少し多いようです。詳細内容は、添付資料2（12頁）をご覧ください。

（1）アスス暦（12人：タケヒト～タリヒコ）

- ・季節の記述を層別しますと、春4件、冬1件、未記述7件になります。
- ・見方を変えて年の記述を奇数、偶数年で季節別に分けますと、奇数年の3件全てが春です。偶数年は、春1件、冬1件、未記述7件になります。

表2 現2倍化暦に見るスメラギ即位年の季節（表中の数字は件数を示す）

NO,	記述	見方	無	有	右内訳	春	夏	秋	冬
1	季節の記述		7	5		4	-	-	1
2	年の記述	奇数年	0	3		3	-	-	-
		偶数年	7	2		1	-	-	1

（2）日本書紀暦（参考調査）（12人：神武～景行天皇）

12人の天皇について調査して見ました。驚くことに即位年の季節は、12人とも記述されており、春10件、秋1件、冬1件でした。また、奇数年4件と偶数年8件になっておりました。

表3 日本書紀の天皇即位年の季節（表中の数字は、件数を示す）

NO,	記述	見方	無	有	右内訳	春	夏	秋	冬
1	季節の記述		0	12		10	-	1	1
2	年の記述	奇数年	0	4		3	-	-	1
		偶数年	0	8		6	-	1	1

2) 1倍化暦の即位年と季節の関係

（1）試行結果

1倍化暦を計算した結果、2倍化暦との違いは12件中1件のみで、即位の偶数年春1月→秋7月に計算されます。他の11件は季節の移動はありません。季節の移動がない11件を簡単に述べますと、7件は即位年の季節が未記述のため計算できず。3件は奇数年で即位1月→1月で変化なし。最後の1件は10月12日→11月22日に計算されるが、季節の移動はありません。

表4 2倍化暦と1倍化暦の変化季節（変化部には、表中に黄色部を示す）

NO,	記述	見方	無	有	右内訳	春	春→秋	夏	秋	冬
1	季節の記述		7	5		4		-	-	1
2	年の記述	奇数年	0	3		3		-	-	-
		偶数年	7	2			1		-	1

(補足)

(1) 項の試行結果で述べました、「12件中1件のみで、即位の偶数年春1月→秋7月に計算されます。」と説明したが、この個所は、ホツマツタエでは、綏靖天皇の即位年134年です。日本書紀暦日原典を参考にしますと、綏靖天皇の即位前年の神武天皇76年～綏靖天皇の即位までの間には、3年の空白があります。アスス暦と日本書紀暦はこの個所のみが大きく違います。

(2) 1倍化暦を試行して判明した事項

【ホツマツタエ】では、2倍化暦→1倍化暦に置き直して計算した場合、2倍化暦の奇数年の1月～3月の春の季節は移動しない。また偶数年でも10月～12月の冬の季節も移動しない。全般的に見ますと、季節を気にしなかったように、即位の偶数年の58% (7件) は季節の記述がありません。このことを極論しますと、古代にアスス暦の原暦→現アスス暦に改訂されたと仮定しますと、偶数年は季節を無視する「なにか」があり、現アスス暦に移行時に季節を書けなかったとも推定されます。それとも、季節が移動する年月は、奇数年の4月～偶数年の9月までになり、この範囲に即位の年、月があったため、季節を無視したことが有力説と思われます。今後、古代日本の遡り年の検証は、スス暦、アスス暦の1倍化暦で再検証する時代が到来をすると予想されます。

(ご参考)

天鈴七百八十八穗のフ(七)月十一日 → 冬・10月6日(1倍化暦)

【日本書紀】では、12人(件)の全ての天皇の即位年に季節が記述されておりました。その内の9人(件)は即位年が奇数、偶数年に関係なく春・睦月に記述されておりました。他の3人は冬10月、秋7月です。また、日本書紀でも天皇の歳は、100歳以上の高齢が多く、2倍化暦で計算されていることが想定されますが、ホツマツタエと違い、偶数年にも季節が記述されており、原暦が1倍化暦であったとする根拠が消えておりました。このことは、日本書紀を編纂する時、「睦月は春」と決めていた節も考えられます。更に、ホツマツタエには、ヤマトタケが双子で生まれるまでの妊み月21月が記述されていますが、日本書紀には未記述です。このことから、年齢、妊み月を正しく検証できる太陽暦から判断しますと、日本書紀暦を用いた古代日本の遡り年の再検証には無理があると判断されます。況して、2倍化暦の暦と疑われる日本書紀暦の神武天皇の即位年・紀元前660年は真実性が疑われて久しいようです。

2、1倍化暦の計算年と自然現象月、考古学年、火山噴火年との西暦比較

今回、スス暦、アスス暦の2倍化暦の原因となっていた、1日の長さを是正した改訂1倍化暦で再計算し直した結果、5件の自然現象の発生月、3件の考古学の年代、1件の火山の噴火時期などと比較した結果、ほぼ遜色ない年代値が得られたようです。このように、1倍化暦に再現された状況証拠より改めて判断しますと、元のスス暦、アスス暦は2倍化暦であると判定されました。なお、状況証拠を添付資料3(13、14頁)に掲載しましたのでご覧下さい。

Ⅵ、スス暦、アスス暦の古代太陽暦の証明と日本書紀暦との比較

古代太陽暦の証明とは、吉田説により国際的な西暦との対照暦で、ワカヒトの生まれを紀元前330年頃とする暦を云います。またタケヒトのスメラギ（天皇）の初年は、紀元前133年になります。

解説 （先の説明と一部重複する個所があります。）

アスス暦の太陰太陽暦を基準に、スメラギ（天皇）の百歳を超える年齢および、21月で生まれたヤマトタケの記述を再検証しますと、アスス暦は2倍化暦で証明され、普遍の太陽暦の妊み月10月との対照ができないようです。そのため、年齢、妊み月が太陽暦と照合できる条件は、スス暦に記述の通り「約27鈴で1日の長さが16穂→8穂に改訂」された内容を織り込む必要があり、その是正された暦（2倍化暦→1倍化暦）を使用しないことには説明できないことが判明した。

そのことを証明するように、アスス暦の奇数年の1月には「春」の記述はありますが、偶数年（除くアスス134年）の1月には「春」の記述がありません。このことは、元の1年暦を2年に膨らませた2倍化暦で計算されており、1月は1月と変わらないが6月が12月となり、7月は翌年の1月、12月は12月になっておりました。

日本書紀暦との比較

また、日本書紀暦も編纂時に改悪されたようで、日本書紀の偶数年の1月に相当するアスス暦の1月には、春の記述がありませんが、日本書紀暦の各天皇の1月には、春が記述されておりました。このように、2倍化暦を肯定するように、高齢天皇も肯定されるに至ったようです。このように、日本書紀暦からは本来の古来年代が、現在において再現できないことが判明しました。なお、詳細なアスス暦と日本書紀暦の主な比較内容については、添付資料4（15頁）に掲載しましたのでご覧下さい。

VII、1 倍化暦の将来性

今まで説明してきたように、古代日本は1 倍化暦で国際的にも説明できるようです。このことより、現アスス暦（2 倍化暦）→改訂_アスス暦（1 倍化暦）を世に問いたいと思います。このことは、見果てぬ「夢」になるかもしれませんが、暦法、理論的に立証されておりますので、自分に期待したいと思います。この見果てない夢は、真実の日本古代史を知りたい人の本心かも知れません。また、将来の学会設立の目標を掲げるとしたら、近代の証拠主義を貫き、証拠を残すため、ホツマ研究者については、学術的な研究が必須になってくると思います。そのことにより、戦後、閉ざされ気味だった文献考古学の扉を再び開くことにもつながります。ホツマツタエの研究成果により、その日も近いと思われます。

（おわり）

【引用文献】

日本書紀（朝日新聞本、インターネット掲載）
ホツマツタエ（安聰本・復刻本）
ほつまつたゑ上下（鍋邦夫編著）
辞書・大辞林、他

添付資料 1

下記の文章は、ホツマツタエ原文の直訳文を記載しました。また、その文が、日本書紀に記載されている個所は、桃色の文字で表示しました。すると、桃色の文字でない妊娠月の「フソヒ（21）月」や「ソム（16）月妊娠」の文章は、日本書紀に未記載のため、日本書紀の元の暦法が検討もできない状態になっておりました。その点、ホツマツタエには、記述されており元のアスス暦の暦法が検討でき、本件の原稿に繋がったようです。

直訳文

【例1】 38アヤ（綾）3～5抜粋 （桃字：日本書紀に記載の文を示す）

若宮の	初暦（1穂）	
フホ（2穂）弥生	吉備津彦が女	
立つ后	播磨のイナヒ	
オイラツ姫	内待の時に	妊娠月の計算
去年（1穂）ウ（4）月	妊娠して生まず	1年4月～2穂12月
フソヒ（21）月	経て（2穂）師走望	数えて21月になる
碓端に	餅花なして	
双子生む	兄の名モチヒト	
オウス皇子	弟の名ハナヒコ	
コウス皇子		

【例2】 38アヤ（綾）20の抜粋

	またソオタケが	
タケ姫は	ソム（16）月妊娠	妊娠月の記述
双子生む		16月

（Ⅳ項、1項の補足説明） 妊娠月21月の子供の体重予想

現在人の知識では、「10ヶ月目の子供はお腹の中で、一日に茶碗一杯（140g）も体重が増える」と云われております。そこで、10ヶ月目→21ヶ月目までの体重の増加を計算しますと、30日×11ヶ月×140gの46200gも増加します。双子の1人々々の10ヶ月目の体重を800g～1600gと仮定した場合、21ヶ月目は、各々が47kg～47.8kgになることが予想され、2人の子の体重の合計は94kg～95.6kgになります。現在人の1人の子の通常の分娩は3200g～4000gと云われておりますので、このことから判断しても、21ヶ月目の分娩は無茶な記述と判断されます。

添付資料 2

1、2 倍化暦の即位年と季節の関係

スメラギ（天皇）の即位年について、アスス暦と日本書紀暦の記述年を奇数年、偶数年に分けて季節の記述を調査して結果が下表です。なお、日本書紀の天皇の初年は、表内の（前数字）よりアスス暦の年に換算し表示しました。

(1)奇数年（アスス暦換算） 表5 識別（青色：ホツマ、赤色：日本書紀）

N0	アスス暦	アスス暦換算	文章の記述	季節
1	243		《孝昭天皇》天鈴二百四十三年ツミエ(3)春ム(睦)月ツウエ(23)初	春
2	621		《崇神天皇》天鈴六百二十一年キナエ(21)春ム(睦)月ネシエ(19)初	春
3	689		《垂仁天皇》天鈴六百八十九年ネヤエ(29)春ム月ツアト(14)初	春
4		243	《孝昭天皇元年(前四七五)》元年春正月丙戌朔甲午。	春
5		561	《開化天皇元年(前一五七)》冬十月丙申朔戊申。	冬
6		621	《崇神天皇元年(前 九七)》元年春正月壬午朔甲午。	春
7		689	《垂仁天皇元年(前 二九)》元年春正月丁丑朔戊寅。	春

(2)偶数年（アスス暦換算） 表6 識別（青色：ホツマ、赤色：日本書紀）

N0	アスス暦	アスス暦換算	文章の記述	季節
1	58		《神武天皇》年サナト(58)初日サヤエ(17)に	
2	134		《綏靖天皇》天鈴百三十四年ツアエ(1)春初日サナエ(57)	春
3	170		《安寧天皇》天鈴百七十年ネアト(50)アフミ(七)三日	
4	208		《懿徳天皇》天鈴二百八穂サミト、キサラ(2)四日ネアエ(49)	
5	326		《孝安天皇》天鈴三百二十六年初のナカ	
6	428		《孝霊天皇》天鈴四百二十八年初十二日	
7	504		《孝元天皇》天鈴五百四穂ム(睦)月十四日	
8	560		《開化天皇》天鈴五百六十穂冬メ(十)の十二日	冬
9	788		《景行天皇》天鈴七百八十八穂のフ(七)月十一日	
10		58	《神武天皇元年(前六六〇)》辛酉年春正月庚辰朔。	春
11		134	《綏靖天皇元年(前五八一)》元年春正月壬申朔己卯。	春
12		170	《安寧天皇元年(前五四八)》元年冬十月丙戌朔丙申。	冬
13		208	《懿徳天皇元年(前五一〇)》元年春二月己酉朔壬子。	春
14		326	《孝安天皇元年(前三九二)》元年春正月乙酉朔辛卯。	春
15		428	《孝霊天皇元年(前二九〇)》元年春正月壬辰朔癸卯。	春
16		504	《孝元天皇元年(前二一四)》元年春正月辛未朔甲申。	春
17		788	《景行天皇元年(七一)》元年秋七月己巳朔卯己卯。	秋

添付資料3_【具体的な状況証拠】

1、自然現象月とスス暦、アスス暦の対比

(1) 不知火の見える月

【記述】景行天皇の御世18年のサ(5)月の初日の条に、「人の火ならず
知らぬ火の」記述がある。

【計算値】9月1日

【解説】2014年の不知火が見える日は、旧暦8月1日(2014年8月25日)

(2) 河内狭山の日照り

【記述】垂仁天皇62年秋 フミ(7)月、河内狭山は水足らず

【計算値】10月

【解説】現在の河内狭山市の7~8月は雨が多く、11月~3月は雨が少ない。

(3) 八女より見えるマエ山の見える季節

【記述】景行天皇18年7月4日~8月頃、(筑紫巡幸)マエ山のアワ岬見て

【計算値】10月2日~31日頃

【解説】八女から望むマエ山は、約60Km先にあり大気が済んだ秋に見える。

(4) ム(陸)月のミュキ(深雪)降り

【記述】アスス829年睦月スエ八(28)日、ミュキ(深雪)降り

【計算値】1月15日

【解説】小寒の頃であり、今も大雪が降る年もあり。

(5) 新嘗祭の原点

【記述】八月初日に生る初穂

【計算値】10月16日

【解説】年が未記述のため不明であるが、奇数年で4月16日、偶数年で10月16日になる。このことより、八月初日に生る初穂は、後の新嘗祭、勤労感謝の日11月23日の原形であろうか(私見)

2、考古学とスス暦、アスス暦との対比

(1) 鉄の伝来時期

【記述】真澄鏡 イヅクリ（鑄物作り）進む イサナギは 天お治する うつの子お

【計算値】鉄の伝来時期は、スス暦の計算値より紀元前4世紀（紀元前330年～331年）になる。

【考古学】福岡県の石崎曲り遺跡の調査結果、鉄の伝来は前4～前3世紀と言われている。

(2) 銅鐸

【記述】タマモシヅ 出雲祭らば マグサマジ カヨミ押し振り ねみ鏡
ミソコタカラ（三十九宝）の ミカラヌシ

【計算値】銅鐸が作られ時期は、スス暦より計算すると、紀元2世紀（紀元179年～180年頃）になる。

【考古学】紀元前2世紀～紀元2世紀に銅鐸が作られ、1996年に加茂岩倉（出雲）にて、銅鐸が発見され、その銅鐸総数が三十九（ミソコ）個であった。

(3) 埴輪

【記述】奉る 今より後は ハシモノ（土師物）お 生けるに代えて 御陵に
植えて例しと なすべしや

【計算値】埴輪の作られ初めの時期は、スス暦の計算値より紀元3世紀（紀元200年頃）になる。

【考古学】紀元3世紀後半～6世紀後半に埴輪が作られた。

3、古代富士山の最後の活発期

【記述】ホツマには、孝靈天皇の御世にハラミ山が五百年前噴火した記述があった。

【計算値】その年を2→1倍化暦に、変換すると今から2430年～2435年前の噴火だった。

【資料】富士山の最後の活発期だった2300年前までに本栖湖が半分埋まって、現在の湖の姿になった。

（引用文献：産総研地質調査総合センターの富士山資料）

添付資料4_【アスス暦と日本書紀暦との主な比較】 表7

N0,	比較内容	アスス暦	日本書紀暦	コメント
1	初代タケヒト～12代タリヒコ			スメラギ(天皇)
	百歳を超える年齢	111 歳～137 歳	105 歳～140 歳	
	ヤマトタケの妊み月	21月	無	書紀には、21月の記述無し
	神武76年～天鈴134年	翌年	空白の3年	
	2代綏靖天皇の御世年	36年	33年	
	アスス560年	アスス560年春	アススと1年違い	(561年春)
2	生理学上の長寿原因			
		検証の記述有	検証できる記述無	
3	暦法の現象			
		2倍化暦	儀鳳暦	日本独自暦の検証無し
4	即位年の季節の記述			
	奇数年	3件中3件→ 春	春 ←4件中4件	
	偶数年	9件中2件→ 冬、春		
		9件中7件→ 無(*)	春 ←8件中8件	←ホツマが原典であれば、季節の記述「無」が正しい。「有」にした為、毎年の春になり、2倍暦が肯定され、高齢天皇も肯定された
5	2倍化暦になった原因			
		1日の長さの変化		
6	是正後の暦			
	即位年の季節有の記述	2倍化暦→1倍化暦		
	奇数年	3件中3件 変化無(春)		
	偶数年	2件中1件→ 変化無(冬)		
		2件中1件→ 春 → 秋		
7	長短所			
		西暦と対比可	歴史性の欠如	
8	年代			
	スス暦の御世	B.C536～B.C152		
	アスス暦の御世	B.C151～A.D262	B.C660～A.D126	
9	歴史認識			
	アスス暦:1日の長さより再現された古代年		日本書紀暦:欠史八代説で否定された古代年	
10	(参考)1倍化暦(原暦)⇒ 2倍化暦に変更時			
	1月 春 ⇒	奇数年の1月 春		
	11月 冬 ⇒	偶数年の10月冬		
	7月 秋 ⇒	偶数年の1月 春		
	7月 秋 ⇒	偶数年の1月 春 → 無(*)		

添付資料5_【過去の発表原稿】

原稿1～4は、すべてWebにリンクしておりますのでご覧下さい。

原稿名

1、ホツマの世界

スス暦、アスス暦を太陽暦に変換する
解読キーワード 2倍化暦とは

2、ホツマツタエ講座

アスス暦の太陰太陽暦は現実だった！！

（新）懸案だったアスス暦の太陰太陽暦の証明と1年間の平均日数の再確認

（旧）懸案だった閏年の発生パターンの発見と1年間の平均日数の再確認

3、ホツマツタエ講座

（仮）27鈴頃～のスス暦は、2倍化暦で誤植された古代太陽暦であった。

その史料を基に、長暦（暦）の太陰太陽暦の（現）アスス暦が編纂されていた。！！

4、ホツマの世界

古代暦法「スス暦」、長暦（暦）「アスス暦」解読秘伝の書
～紀元前後の御世に「ホツマの世界」が存在した～

（以上）